

ビジネス最前線

④

ニーズ対応がカギ

世界最速で高齢化を迎えるわが国において、医薬品業界は国内で安定した収益が見込まれる産業の一つだ。海外展開を含めて日本の成長をけん引していく役割が期待される。新薬、有効成分の研究・開発、製造などの現場を支える反応装置、攪拌機、測定装置、容器、分析機器などを供給する先端機器メーカーの役割も大きい。医薬原薬・中間体分野を化学品、食品、電子材料分野と並ぶ高付加価値市場と捉え、基礎研究から製造プロセス、品質管理まで、きめ細かな用途、ニーズへの対応力を強めている。

4月9～11日に東京ビッグサイトで開催される国際医薬品原料・中間体展「CPhI Japan 2014」(主催：化学工業日報社、UBMジャパンなど)は、業界関係者が一堂に会し、研究開発、ビジネスに関する情報交換の場として定着、発展してきた。併催の「原薬・中間体 機器/装置展(PIMEC Japan)」にも各社が特徴的な技術・製品を多数出展する。

現場支える先端機器

付加価値市場に技術結集

用途」と最新技術

日機装の目玉は、原薬・中間体の製造工程・品質管理・研究開発に不可欠な粉粒体物性評価装置の新製品。

測定機能付き流動電位(ゼータ電位)測定装置「Stabino」は、動的光散乱法(DLS)オプションのゼータ電位計では測定困難な条件下で短時間に高精度の測定が可能。ナノ粒子径測定装置として世界最小クラス「NANOfile x」と組み合わせ多様なアプリケーションに対応する。



最小の「NANOfile x」と東京マイクローブの「ミルスター」(左)と東機高機能微粉砕機



日本フロロコントロールは、独CENTEC社製の溶液濃度計、溶液密度計/音速度計など各種計測センサーに関して、化学、バイオ医薬など多様な分野の流

体に対応してきた実績をPR。昭光サイエンティフィックは誰でも簡単にサンプルの分子量を測定できる4重極型・簡易質量分析計「エクस्पレーションCMS」を紹介する。

旭製作所が初出展する実験用の「ブルーラベルPRO」シリーズは、自社規格に基づくブルーラベルの上位版。混ぜることに特化した100リットル二重管反応装置、佐竹化学機械工業のトルクメーターを組み合わせた3リットルメーター付二重管反応装置など3機種を

アクター装置、フロウ光反応合成装置などラボ実験に最適なシステムおよび新規分取装置を紹介。ユラホジャパ



超高速ハンマーの働きで、原薬や賦形剤を平均粒径10μm以下に粉砕できるうえ、製造時間の大幅な短縮を実現する。

競争領域は幅広く

競争領域がバイオ創薬、再生医療など最先端の研究開発に広がり、また普及が進むシネリック医薬品(後発薬)においては低コスト化などを追求した技術が要求されている。このなかで先端機器メーカーも独自の技術、製品を提案し、新規顧客を獲得する機会としてPIMECに注目している。(おわり)

この連載は渡辺義真、細井康弘、渡邊靖正、堀口昇、山下裕之が担当しました。